ブドウ「ネオ、マスカット」の無核果形成
および熟期に及ぼすジベレリンの影響

岡田 恵・宮崎 政孝
（大分県農業技術センター）

Effect of Gibberellin on the Seedless and Ripening of Neo Muscat Grape

ネオ、マスカット1種に対しジベレリンによる無核果形成および成熟期の促進効果、果粒の肥大程度ならびに果形につき検討するため、3年生の苗を指や旺盛なものを使い、開花前15日に濃度100ppmおよび150ppm（エアーロールOPの100ppm加用）と開花後7~10日に100ppmの処理を行ったのでその結果の概要を
報告する。

成績の概要
1）無核果形成率については100ppm区で平均78.0％
（最低71.7％）果粒の肥大程度は一粒重2.65gと無処
理対照区4.90gに対して劣ったが、着粒数は増加の傾
向をみあり、附着して小粒の剥果も多く著しく、形成
された無核果粒にも大小不均一の傾向が強かった。
150ppm区では無核果形成率平均92.5％
（最低80.3％）と高率を示し果粒の肥大程度も一粒重
3.38gで無処理区との差は少なく無核果の粒数もほぼ均一で果肉
及び果皮の外観、食味ともすぐれた良好で小粒剥果も
極めて少なく実用面から有望と思われた。

2）成熟期の促進効果は顕著なものがあり、処理と
無処理の9月7日に収穫したの比縄約32日間促進

第1表 ジベレリン処理によるネオ・マスカットの収穫物調査表

<table>
<thead>
<tr>
<th>処理区</th>
<th>果粒長 cm</th>
<th>果粒径 cm</th>
<th>果粒重g</th>
<th>果粒数</th>
<th>果粒重g</th>
<th>果核果数</th>
<th>有核果</th>
<th>小粒果</th>
<th>糖度</th>
<th>収穫期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>15日前 + 15日後 (100ppm)</td>
<td>19.28</td>
<td>12.75</td>
<td>393.4</td>
<td>143.9</td>
<td>2.65</td>
<td>87.0</td>
<td>16.8</td>
<td>多</td>
<td>18.8</td>
<td>8月 5日</td>
</tr>
<tr>
<td>15日前 + 10日後 (150ppm)</td>
<td>19.94</td>
<td>10.83</td>
<td>341.1</td>
<td>98.9</td>
<td>3.38</td>
<td>92.5</td>
<td>6.2</td>
<td>少</td>
<td>18.1</td>
<td>8月 5日</td>
</tr>
<tr>
<td>無処理</td>
<td>18.50</td>
<td>9.50</td>
<td>280.0</td>
<td>90.0</td>
<td>3.75</td>
<td>77.5</td>
<td>12.5</td>
<td>甜</td>
<td>8.0</td>
<td>9月 7日</td>
</tr>
</tbody>
</table>

無核果形成率の度数分布曲線

され、キャンペル・アーリーの収穫期より10~15日早
く8月初旬に収穫することができた。
3）果粒の密著度は対照区（100）に比150ppm区に
おいて5.8％の増加で摘粒の必要性は認められなかっ
たが、100ppm区では68.0％着粒が増加しており摘
粒考案する必要を感じた。
4）その他、果皮が薄く弱いのに対し処理区は対照
区に比較し、種軸や小粒径が肥大したので多少著
粒易い傾向にあり、荷造り等の面より今後果皮の整
形に留意すべきである。また熟期が早いため皮腐病の
被害程度が少ないこと、処理果は果皮と果肉がやや離
れがたい傾向にある。